

苫小牧市財政健全化計画
H24 ローリング版

(平成22年度～24年度)



平成24年 2月

苫 小 牧 市

目 次

1 財政健全化計画のローリングにあたって	1 ページ
2 収支見通し総括表(経常経費の収支見通し)	2 ページ
3 計画の具体的な内容	
(1) 行政改革プラン等の確実な実施	
1 行政改革プラン項目の実施	3 ページ
2 予算編成における実施	4 ページ
3 各特別企業会計の繰出金	4 ページ
4 基金・市債の活用	5 ページ
5 財源確保額一覧表	6 ページ
(2) 財政指標	7 ページ
(3) 今後の苫小牧市の財政のあり方	8 ページ

1 財政健全化計画のローリングにあたって

苫小牧市の財政健全化計画は、「苫小牧市財政健全化プラン実施計画(平成17年度～21年度)」「(平成17年2月)」、「苫小牧市財政健全化計画(平成19年度～21年度)」「(平成19年2月)、そして「苫小牧市財政健全化計画(平成22年度～24年度)」を策定してきました。地方自治体を取巻く財政環境は一向に改善されず、昨今の政策転換や経済不況に対応できる財政体質が強く求められています。

未だ混沌とした情勢ではありますが財政健全化計画の方針・目的である

- (1)行政改革プランと密接に連携した計画目標の実施
- (2)「健全化の道筋」である財政指標の達成
- (3)市民及び職員の財政状況の認識の共有化
- (4)毎年のローリングによる状況説明

により計画目標の達成に努め、柔軟性のある財政構造への転換に取り組んできました。

平成24年度の予算編成では、枠配分予算を拡大し、マネジメント力の強化とコスト意識の醸成、自主・自立性の更なる進化を図り、震災対策を始めとする政策課題に対処するため政策主導型予算編成を実施いたしました。

このたび新年度予算案の完成に伴い、一般会計予算額を計画値に変更し、改めて財政健全化計画ローリング版としてお示しします。

2 収支見通し総括表（経常経費の収支見通し）

平成23年度決算見込（最終補正）額と平成24年度予算額を財源対策前の値に置き換えて計上しています。

（単位：百万円）

	23年度			24年度		
	前回ローリング値	今回ローリング値	差引	前回ローリング値	今回ローリング値	差引
一 一般財源	41,697	41,903	206	41,415	40,768	△ 647
市税等	27,357	27,656	299	27,075	26,504	△ 571
地方交付税等	11,080	11,010	△ 70	11,080	11,000	△ 80
地方譲与税等	3,098	3,074	△ 24	3,098	3,166	68
財産収入	162	163	1	162	98	△ 64
特定財源	16,933	16,157	△ 776	18,795	17,929	△ 866
国道支出金	15,271	14,431	△ 840	15,859	15,006	△ 853
使用料・手数料	770	767	△ 3	2,027	1,904	△ 123
分担金・負担金	475	487	12	475	479	4
その他の	417	472	55	434	540	106
歳入（経常）合計	58,630	58,060	△ 570	60,210	58,697	△ 1,513
義務的経費	48,808	47,710	△ 1,098	49,884	48,802	△ 1,082
人件費	9,964	9,866	△ 98	9,942	10,123	181
扶助費	21,205	20,316	△ 889	21,962	21,098	△ 864
公債費	7,813	7,743	△ 70	8,271	8,183	△ 88
各会計繰出金	9,826	9,785	△ 41	9,709	9,398	△ 311
その他の経費	7,517	7,576	59	8,194	8,300	106
歳出（経常）合計	56,325	55,286	△ 1,039	58,078	57,102	△ 976
経常収支差引	2,305	2,774	469	2,132	1,595	△ 537

3 計画の具体的な内容

(1) 安定した財政環境を確立するため事務事業の点検など、行政改革プランと密接に連携して計画項目を実施する。

(1)-1 行政改革プラン等の確実な実施

○ 補助金・負担金の見直し

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値	7	15	22
前 回 ロ ー リ ン ク 値	10	16	26
今 回 ロ ー リ ン ク 値	10	55	65

各団体の決算状況、費用対効果及び負担の根拠などから見直しを行ないました。今後も、継続的な取組により削減を図っていきます。

○ 使用料・手数料の見直し

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値	2	2	4
前 回 ロ ー リ ン ク 値	1	5	6
今 回 ロ ー リ ン ク 値	2	6	8

3使用料、1手数料の見直し及び新設を行ないました。受益者負担の適正化の観点から継続的に取組んでいきます。(学校開放校、モーラップ樽前荘、市有放牧場、計量検査手数料)

○ 新学校給食共同調理場の民間委託

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値		(118)	(118)
前 回 ロ ー リ ン ク 値		(118)	(118)
今 回 ロ ー リ ン ク 値		(118)	(118)

○ 公共施設の改廃、指定管理者の導入

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値		9	9
前 回 ロ ー リ ン ク 値		9	9
今 回 ロ ー リ ン ク 値		10	10

苫小牧市行政改革プラン及び苫小牧市公共施設運営計画により、各公共施設の改廃、指定管理者の導入を行いました。平成24年度の効果は、総合体育館の指定管理者導入によるものです。

平成25年度以降の取組

【施設の廃止】

ハイランドスポーツハウス(平成25年度)	勤労青少年ホーム(平成25年度)
----------------------	------------------

【民間移譲】

市立保育園(一部)

【指定管理者導入】

中央図書館	女性センター
児童館・児童センター	

○ 職員数の削減

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値	83	170	253
前 回 ロ ー リ ン ク 値	88	170	258
今 回 ロ ー リ ン ク 値	97	112	209

○ 給与の適正化

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値	10	10	20
前 回 ロ ー リ ン ク 値	8	14	22
今 回 ロ ー リ ン ク 値	8	14	22

通勤手当及び特殊勤務手当の一部について見直しを行ないました。引続き、適正化に向けた取組を行ないます。

(1)-2 予算編成における実施

○ 予算編成時の事業見直し(事務事業の早期見直し指摘)

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値	30	30	60
前 回 ロ ー リ ン ク 値	45	30	75
今 回 ロ ー リ ン ク 値	45	107	152

平成24年度予算編成では従来の枠配分方式を拡大いたしました。同時に必然的に減少する経費を1件査定で圧縮し、予算編成を実施いたしました。

○ 広告収入の確保

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値	1	1	2
前 回 ロ ー リ ン ク 値	1	1	2
今 回 ロ ー リ ン ク 値	1	1	2

財政課が主体となり先進事例の紹介を実施し拡大を図りましたが、経済情勢もあり平成22年度に実施した庁舎動画広告と平成23年度に実施したエレベータ壁面広告になりました。

(1)-3 各特別企業会計の繰出金

○ 自動車運送事業会計廃止に伴う繰出金の減

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値		577	577
前 回 ロ ー リ ン ク 値		577	577
今 回 ロ ー リ ン ク 値		577	577

平成24年4月全面民間移譲に伴う会計閉鎖により、一般会計からの繰出金は削減されました。移譲に伴う経費は別途支出することになります。

○ 市営住宅事業会計の会計方式変更による出資金の廃止

(単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値		111	111
前 回 ロ ー リ ン ク 値		111	111
今 回 ロ ー リ ン ク 値		141	141

会計方式の変更により一般会計からの繰出金を削減することができました。

○ 市立病院事業会計の初期投資(機械器具)企業債償還終了に伴う繰出減 (単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値		300	300
前 回 ロ ー リ ン ク 値		300	300
今 回 ロ ー リ ン ク 値		297	297

国の基準により市立病院移転改築時の初期投資に対して繰出(補助)を行なってきましたが、医療機器の企業債償還が終了することに伴い繰出金が減少します。

○ 市立病院事業会計の収支支援 (単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
今 回 ロ ー リ ン ク 値		△ 831	△ 831

今後の施設整備のために借入する企業債の発行条件となっている累積資金収支の赤字を解消するために支援を行います。

○ 国民健康保険事業会計の長期債務解消による赤字補てん繰出の廃止 (単位:百万円)

	平成23年度	平成24年度	合 計
当 初 計 画 値	150	150	300
前 回 ロ ー リ ン ク 値	150	150	300
今 回 ロ ー リ ン ク 値	150	150	300

国民健康保険事業の単年度の収支の改善(単年度の赤字補てん)を図るため繰出(補助)を行ってきましたが、平成21年度決算で長期借入金の解消がなされたことから赤字補てんが不要となり繰出金を削減しました。

(1)-4 基金・市債の活用

財源対策として市債、基金を活用する。

(単位:百万円)

前 回 ロ ー リ ン グ 値		平成23年度	平成24年度	合 計	備 考
	退職手当債				
	基金運用	750		750	
	基金取崩	750		750	財政調整基金ほか(財源対策)
	合 計	750		750	

今 回 ロ ー リ ン グ 値		平成23年度	平成24年度	合 計	備 考
	退職手当債	300	800	1,100	
	基金運用	△ 101	259	158	
	基金取崩	△ 101	259	158	財政調整基金ほか(財源対策)
	合 計	199	1,059	1,258	

【基金繰替運用返済計画】

(単位:百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合 計
当 初 計 画 値	150	150	150	200	650
前 回 ロ ー リ ン ク 値				200	200
今 回 ロ ー リ ン ク 値				200	200

※平成27年度の2億円は先の健全化プランで運用した「福祉ふれあい基金」を返済するものです。

(1)-5 財源確保額一覧表

(単位:百万円)

	平成23年度		平成24年度	
	前回ローリング値	今回ローリング値	前回ローリング値	今回ローリング値
A 経常経費から生み出される臨時事業一般財源	2,305	2,774	2,132	1,595
B 財源対策合計 (1+2)	1,353	1,278	1,633	2,198
1 歳入の確保	1,052	968	256	1,566
(1) 広告料	1	1	1	1
(2) 使用料・手数料	1	2	5	6
(3) 遊休資産の売却	200	348	150	400
うち自動車運送事業会計からの引継ぎ資産				(250)
(4) 退職手当償の活用		300		800
(5) 基金等の活用	750	△ 101		259
基金取崩	750	△ 101		259
基金繰替運用				
(6) 前年度繰越金	100	418	100	100
2 歳出の抑制	301	310	1,377	632
(1) 職員数の削減	88	97	170	112
(2) 職員給与等の見直し	8	8	14	14
(3) 補助金・負担金	10	10	16	55
(4) 指定管理者・民間委託の推進			9	10
(5) 繰出金の見直し	150	150	1,138	334
(6) 予算編成での事務事業見直し	45	45	30	107
臨時事業一般財源総合計 (A+B)	3,658	4,052	3,765	3,793

- ・臨時事業に充当できる一般財源の規模です。平成23年度決算見込では、当初に基金取崩しを予定していた7億5千万円を組戻し、平成24年度以降の財源対策としています。また、計画で示しているとおり、前年度繰越金の一部5千1百万円を財政調整基金へ雪氷対策費の執行残5千万を備荒資金へそれぞれ積立てました。
- ・上記の額は、本市の財政規模では決して多い額とはいえませんが、財政健全化へ日々取り組みにより、この額を確保することが大切と考えます。また、今後も収支見直しについては市民の皆様には必要があると考えています。

(2)「健全化の道筋」は財政指標により、目標達成の道筋は財政健全化計画により示す。
(財政指標は位置的な把握を重点に市民に分かりやすく「ゾーン」管理とする。)

(2)-1 経常収支比率

- 予算編成の柔軟性を確保し事務事業の更なる縮減による行政コスト縮減のため、共通認識として目標指数を示します。
- 平成24年度は不況の影響と固定資産税の評価替により、市税収入が落ち込みました。経常収支比率は計画値を下回る見込みとなりましたが、今後とも予算執行を含め、更なる改善が必要と考えています。

	22年度	23年度	24年度	29年度
計 画 値	89.2%	89.0%	88.5%	86.0%
前 回 ロ ー リ ン ク 値	88.2%	89.4%		
今 回 ロ ー リ ン ク 値	88.2%	89.0%	89.6%	

(2)-2 公債費比率

交付税代替財源としての臨時財政対策債を除いた普通債発行限度額を25億円程度(学校建設等は別枠)として償還元金>市債発行額のコントロールは継続し、また、公債費比率に基づいたコントロールを併用します。平成24年度は市営住宅会計の会計方式変更により公債費が増加しますが、計画値内を確保できました。

	22年度	23年度	24年度	29年度
計 画 値	17.8%	17.5%	19.5%	17.0%
前 回 ロ ー リ ン ク 値	16.5%	16.6%		
今 回 ロ ー リ ン ク 値	16.3%	16.2%	17.5%	

※平成24年度より住宅事業会計に係る市債償還を加算しています。

(2)-3 実質公債費比率

	22年度	23年度	24年度	29年度
計 画 値	11.7%	11.6%	11.5%	10.0%
前 回 ロ ー リ ン ク 値	10.9%	10.7%		
今 回 ロ ー リ ン ク 値	10.8%	10.7%	10.6%	

(2)-4 指標管理ゾーン

	経常収支比率	公債費比率	実質公債費比率
危険ゾーン	92.0%	20.0%	18.0%
警戒ゾーン (1/3)	90.0%	19.0%	16.5%
要注意ゾーン (2/3)	86.0%	17.5%	14.0%
安定ゾーン (1/2)	80.0%	15.0%	10.0%
安心ゾーン			

(3) 市民及び職員の財政状況に対する認識の共有化を図り、今後の苫小牧市の財政のあり方を示す。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の施行に伴い負の資産の積極的な解消に向けた手法を示します。

(3)-1 自動車運送事業会計の閉鎖

- 平成23年度末に廃止します。
- 苫小牧市営バスは、平成24年4月の全面民間移譲を前提とした新経営5カ年計画に基づき、移譲事業者を道南バス(株)と決定しました。これにより自動車運送事業会計を平成24年3月末に閉鎖いたします。

(3)-2 市営住宅事業会計の会計方式変更

- 会計方式変更は平成24年4月1日より一般会計とします。
- 独立採算の公営企業として事業を実施してきましたが、住宅使用料(家賃)算定が建設コストなどから入居者の所得に応じた応能制に変更になり、また、長期借入金の解消も図られたことから会計方式を変更します。この会計方式の変更により、入居者への直接的な影響はありません。
- 会計方式変更により事務の効率化を図ります。また、一般会計への影響は公債費の増(公債費比率は1.3%増)がありますが出資金を廃止し繰出金の削減を図ります。

(3)-3 沼ノ端鉄北区画整理事業会計の閉鎖

- 平成24年度末に会計閉鎖します。
- 沼ノ端鉄北地区を区画整理により道路や宅地の整備を実施しましたが、土地売却が進まず、借入金の解消が進んでいないことから、会計閉鎖について、第3セクター債の活用により検討を進めます。

(3)-4 苫小牧土地開発公社の閉鎖

- 平成35年度末に閉鎖します。
- 公共用地先行取得を目的に設立された公社ですが、土地価格は下落傾向が続き、公共施設の用地取得も見込めないことから、土地取得に要した借入金の解消を図り、公社を閉鎖します。
- 一般会計が5億円規模の用地を計画的に購入し平成35年度末までに閉鎖します。
- 公売が可能な土地を土地造成会計などで買い取り販売する方法も具体的に検討します。
- 平成22年度末の長期借入金残高は51億6千2百万円

(3)-5 退職手当基金会計の検討

- 退職手当基金は基金としての機能・役割を果たしていないため基金を廃止し、負担金管理会計として位置づけます。

(3)-6 基金造成のルール化

- 緊急時(災害等)対応可能な柔軟性のある財政体質への転換のため「基金」造成のルール化を図ります。

「備荒資金」	緊急災害時の対応財源として雪氷対策予算の執行残を積立
「財政調整基金」	決算剰余金の10%程度を市債償還等の財源として基金積立
「減債基金」	

※1 【臨時事業一般財源】

苫小牧市一般会計の支出予算は経常費と臨時費に区分されております。経常費は福祉関係の予算や市債(借入金)の返済費、職員の給与、施設の維持管理費などの日常的な予算です。臨時費はそれ以外ですので、学校の建設や大規模改修、道路・公園などの建設などの経費を指します。

一般財源は、国や道の補助金、市債(借入金)、特定の目的のための基金からの財源以外の市税や地方交付税などで使い道が特定されない財源(お金)です。

臨時事業一般財源とは、臨時の事業に使うことが出来る自由なお金ということになります。通常は経常費に充てて残額を臨時費に充当することになります。

臨時費も市民のニーズに沿った事業であることから、ある程度の一般財源規模を確保することも大切なことです。